

小笹公民館

ストリートネーミング事業

概 要

平成 18 年度

1. 事業名

小笹公民館ストリートネーミング事業

2. 事業の目的

「女性による地域おこし」の学習の一環で、子どもたちの安全を地域全体で見守る、また、転入者が多く地域になじみのない小笹校区の住民に、「地域への愛着」を持ってもらうことを目的とし、主に児童の通学路を対象に通りの愛称を付け、ネームプレートを設置する。

3. 参加団体

ミセス&ミセスの会（9名）

（PTA・子ども会などの役員を経験した女性で構成する地域おこしグループ）

<協力団体> 校区男女共同参画協議会（3名）

4. 実施期間

平成18年4月～

5. 活動の流れ

日時	主な内容
4月17日	大浜公民館を訪ね、地域の活動について話を聞く。
7月14日	小笹校区内を実際に歩き、感じたことを発表。
8月23日	ストリートネーミング事業の今後の進め方について。
9月8日	ネーミングする対象となる通りの検討。
9月20日	情報を元に、通り名を検討。
10月13日	どのような名前が通りの愛称としてふさわしいか。
10月30日	通り名を仮決定、今後の広報の仕方について。
11月10日	通り名の最終決定、通りの基点・終点の確認。
(12月1日号)	福岡市市政だより掲載
(12月7日号朝刊)	西日本新聞掲載
12月8日	決定した通り名の広報の仕方について。
(12月13日号朝刊)	西日本新聞掲載
1月12日	ネームプレートの設置場所を、実際に歩き検討。
2月9日	ネームプレートの設置場所・デザインの検討。
(2月15日号夕刊)	西日本新聞掲載
3月9日	ネームプレートのデザインの検討。
4月13日	ネームプレートのデザインの決定、今後の進め方。
4月21日	(設置箇所現地確認)
5月11日	ネームプレートの設置場所確定。その後、自治会への説明、交渉へ。
5月29日	ネームプレートの取り付け開始。
(5月30日号朝刊)	西日本新聞掲載

6. 決定した通りの愛称

①ロケット公園通り

小笹3丁目の押しボタン信号から平尾中まで。
昔、平尾中央公園にはロケットの遊具があったので、子どもたちに「ロケット公園（ロケ公）」と呼ばれています。

②七夕通り（たなばたどおり）

歩道橋から平尾中・小笹小の西側を通り、公民館まで。
例年、7月に笹飾りで賑わう通りです。

③大休山通り（おおやすみどおり）

小笹公園から小笹団地正門前まで。
昔、南公園・動植物園・小笹団地一帯は、「大休山」と呼ばれていました。

④水道路通り（すいどうみちどおり）

小笹公園から南区との境まで。
昔、平尾浄水地から下長尾に抜ける道に水路があり、これを水道路と呼んでいました。

⑤小笹平和大通り

笹うどんから草苑まで。
現在のバス通りで、小笹と平和をつなぐ生活中心の通りです。

⑥なんじゃもんじゃ通り

平和3丁目の信号から平尾霊園入口まで。
新しくなんじゃもんじゃ（ヒトツバタゴ）の街路樹が整備された通りです。

⑦鴻巣山平和通り（こうのすやまへいわどおり）

セブンイレブンから平尾中・小笹小の東側、警察学校を通り、鴻巣山入口まで。
鴻巣山の登山口に向かう通りです。

⑧馬の背坂通り（うまのせざかどおり）

熊谷歯科から平和中央公園西側を通り、小笹2丁目の信号まで。
旧大字平尾と長尾の行政区境の山の稜線が、昔、馬の背のように見えたそうです。

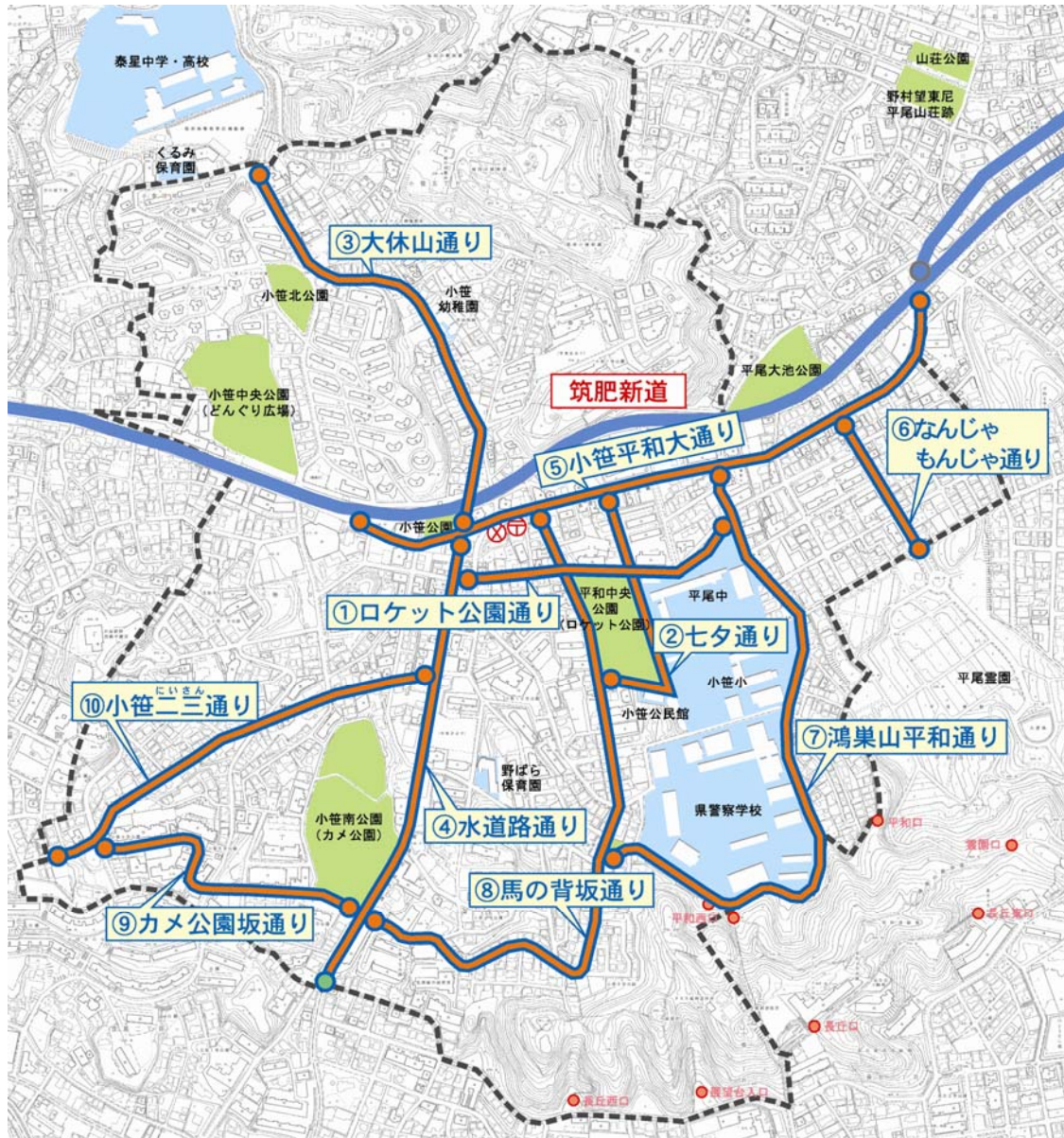
⑨カメ公園坂通り

小笹2丁目の信号からサンリヤン小笹まで。
昔、小笹南公園には大きなカメの形をした遊具があり、子どもたちに「カメ公園」の名で親しまれています。

⑩小笹二三通り（おざさにいさんどおり）

ガソリンスタンドから笹丘校区との境界線まで。
小笹2丁目と小笹3丁目の境となる道路です。

通りの愛称一覧



ネームプレートのデザイン



バスの通る大きな通りは深緑色。
住宅地の中の通りはえんじ色。

デザイン／垣外 波瑠香

7. 活動の様子



設置場所の検討の様子



設置場所の検討の様子



ネームプレートのデザインの検討の様子



設置場所の最終確認の様子



ネームプレート取り付け作業の様子



ネームプレート取り付け作業の様子

おわりに

通りに名前をつけるということ

今回、地域のお母さんたちが子どもたちの安全を考えて始めた「ストリートネーミング事業」ですが、今後、まちづくりにとって非常に大きな活動の始まりだと思います。

大きな幹線道路や京都などの一部のまちを除き、日本のまちの通りにはほとんど名前がついていません。欧米のストリートによる住居表示と異なり、日本では「〇丁目〇番地」という住居表示のため、わかりづらいといわれることがよくあります。さらに、道路を隔てて別の町内になることが多く、道路がコミュニティを分断してしまっていることが多くあります。しかし、かつて日本のまちでも通りを挟んでひとつのまち（両側町）を形成していました。家の前の通りを掃除したり、通りを挟んで向かいの人と話をしたり、通りがコミュニティの中心にありました。当然、通りの賑わいも生まれてきます。

こうした背景を受け、近年、昔の町名を復活させたり、通りに名前をつける取り組みが各地で始まっています。

通りに名前をつけるということは、通りの賑わいづくりやコミュニティづくりの第一歩だと思います。

項目	効果
①地域のわかりやすさ	・ 事件、事故発生時の的確な通報 ・ 観光客・来訪者にとってのわかりやすさ
②地域への愛着を育む	・ まちの歴史の再認識 ・ まちの特徴の再認識
③道を挟んで両側の「まち」のつながり（両側町と都市葉）	・ コミュニティを分断していた通り ・ 通りを挟んで清掃活動、賑わいづくり、特徴づくり、まちづくり

また、今回、通りの愛称にはできるだけ「ふれあい」通りや「にこにこ」通りなどを用いないことにしました。このような愛称は、多くの人が親しみやすいということで、非常に安易に使われることが多く、また、あまりその場所と関係なく用いられることが多いからです。通りの愛称にふさわしい歴史の話や地域の活動、子どもたちがよく利用する場所などをきちんと汲み取って、愛称を付けることができたことで、長い目でみると、地域の再認識や地域への関心を育むことにつながると考えています。

ストリートネーミング事業 アドバイザー
環境デザイン機構 福田 忠昭